

科目コード:130002

生物字 Biology

担当教員	峰松 健夫											
実務経験	担当教員は分子生物学を専門とし、生物学を基盤とした看護学(バイオロジカルナーシング)の教育と研究に携わっている。											
開講年次	1年次前期		単位数		1		授業形態			講義・演習		
必修・選択	選択		時間数		15							
該当ディプロマ・ポリシー	(1)	○	(2)		(3)	◎	(4)		(5)		(6)	
Keywords	細胞、遺伝、遺伝子、発生、分化、ホルモン、神経、免疫											
学習目的・目標	生体の構造や機能など、看護に必要な生物学的基礎知識を理解し、看護における生物学的視点を身に着ける。											
授業計画・内容												
回	内容											
1	オリエンテーション、看護における生物学の意義(教科書1・16章)											
2	細胞(教科書2・3章)											
3	遺伝(教科書5章)											
4	遺伝子発現(教科書6章)											
5	生殖・発生・分化・老化(教科書7・8・15章)											
6	動物の組織・器官(教科書9・10章)											
7	生体調節(教科書11・12章)											
8	微生物と免疫(教科書13・14章)											
教科書	医療・看護系のための生物学(改訂版). 田村隆明著. 裳華房											
参考図書等	教養としての生命科学-いのち・ヒト・社会を考える. 小泉修著. 丸善出版. ISBN: 978-4-621-30116-6 看護系で役立つ生物の基本. 西沢いずみ著. 化学同人. ISBN: 9784759820652											
評価指標	試験70%, 授業参加状況30%											
関連科目	化学, 生命倫理学, 生理人類学, 解剖生理学, 代謝と栄養, 人間病態学, 疾病・障害論I, 薬理学											
教員から学生へのメッセージ	高校で生物を履修していない学生, 苦手だった学生を対象とした講義です。看護の対象が「ヒト」という生き物である以上、生物学は看護師にとって欠かせない素養だと言えます。教科書の暗記ではなく、活きた知識を身に着け、生物学の面白さを体感しましょう。											